



編集・発行 カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
 司牧チーム：後藤正史神父、アルベルト神父、トゥアン神父、
 （協力司祭）豊田尚臣神父
 〒730-0016 広島市中区幟町 4 番 42 号
 TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486
<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2013 年 12 月号 No.462

教会の新年 待降節

新生を待望し、老いを生きる シメオン・アンナ

シスター小野島 照子

皆さま、新年おめでとうございます！びっくりしないでください。12月1日の日曜日は、待降節第一主日、つまり教会の暦では新年を迎えました。救い主の到来を待ち望み続けた旧約時代のイスラエルの民は、長い間、ローマの支配下での圧政に苦しみ続けていました。そんな苦しみの中で、イスラエルの民は神に叫びをあげました。人間の苦しみ悲しみを無視できない神は、自ら彼らと共にあって、腸が揺さぶられるほどの痛みと共感を覚え、他ならぬ神ご自身である独り子・イエスを送ることを決められました。

その神は、人間の歴史に介入して、窮地の中で神を信じるイスラエルの民の叫びに絶えず応答し続けてこられました。出エジプト記に示されるように、イスラエルの民は、飢饉にあってカナン地の地から食糧を求めてエジプトに下り、そこで寄留

者への蔑視と偏見により奴隷にされました。いつの時代も安い労働力が必要な時は、外国人を招き、身寄りのない弱い立場に置かれる「外者」を低賃金・重労働に耐える労働者として彼らの労働の実りを搾取する為に、危険な汚い重労働を押し付け社会の底辺に追いやりまします。富める者達の快適な生活は不正と搾取により、弱い立場に置かれる人々の犠牲の上に成り立っているのは、現代も同じです。旧約時代、苦しむイスラエルの民のエジプト脱出の実現に導いた神は、イスラエルの民が奴隷から解放され、自由に神を礼拝できるよう、約束の地に向かう長い荒れ野の旅を通して神のいつくしみを示し、神と民との絆は固められました。信仰の歩みには、この荒れ野が伴い、それによって、神と私の関係がほんものになるのではないのでしょうか。

洗礼を受けても、私達は直ぐに罪の奴隷、自己中の奴隷状態だった昔を恋しく思い、神に文句を言います。キリストの一番弟子・ペトロのように、キリストに従う事を宣言しても、直ぐにキリストの姿がこの世の価値観とあまりにも違うので、決心をくつがえしてキリストを裏切ってしまう。

私たちは、どんな時も窮地に追い込まれることは苦しくて嫌ですが、これも恵み、どこに助けを求めれば良いかが明らかになるからです。この窮地に追い込まれて神に助けを求めて叫ぶ人々に、神は絶対に応答します。全人類を救うための神の最終的なご計画は、ご自分の独り子・イエスを、無抵抗で無防備の赤子として人間の手に委ねる事でした。生かすも殺すも人間の手中に身を委ねる幼子を世に贈るために、神の協力者となるよう招かれたマリア

は、神ご自身である聖霊のプロポーズに承諾されたのです。

私たち人間を全面的に信頼して身を委ねる赤子のイエスの到来が直ぐそこに迫っていることを告げる待降節は、私達一人一人の内に誕生するイエスを胸はずませて待つ時でしょう。

私はどれだけ神に全面的信頼を置いて、赤子のように身を任せているか疑問です。若い時は、キリストに倣うつもりで一人頑張り、時には自分が救い主であるかのように無意識の内にスーパーウーマンになって

結局疲れ果ててつぶれてしまう経験もしました。そして、次第に自分の心身の弱さや限界を体験するに連れて、神が求められることだけ…で良いと分かり、今は、「たった一つのことを求めて」あとは、あらゆる面で「断捨離」の必要を感じています。神からいただいたすべてを神にお返しし、神と顔と顔を会わせるために必要なことはただ一つ。

両親に連れられて神殿へ初詣された幼子イエスと出会った高齢のシメオンとアンナが、全生涯この日を待ち望んで生き

てきたことを信仰告白しました。「わたしはこの目であなたの救いを見た」(ルカ2/30)と神を讃えたのです。今年は私たちの内に誕生されるイエスを迎えて、「生きていて良かった」と実感できるといいですね。

今、世界のあちこちで苦しむ人々の叫びやうめきに耳を傾けておられる神様のみ心の痛みを思い、私たちをキリストの協力者として使っていただけるよう、「今日」私たちの内に救い主が生まれるよう互いに良い待降節を過ごしましょう！

新任の聖体授与の臨時の奉仕者です。

11月10日に新たに任命されました。よろしくお願いします

MUさん

春、後藤神父様から電話頂いた時、60歳を過ぎて仕事を持っている私に、何故だろうかな、と思いました。しかし、フツと感じました。忙しくしている時だからこそ、「私の信仰の覚悟」を問われているのではないかと。また、「信仰にも仕事にもプラスになる新たな勉強の場」を頂いたと思い、お受けする事にしました。養成講座の案内にありました「『強い信仰を身につけてから』と拒み続けるのではなく不安な心を抱えながらも、祈りつつ歩み出しましょう」との誘いの言葉に励まされ、支えられ、一步を踏み出しました。どうぞ、よろしくお願い致します。

RYさん

このたび、聖体授与の臨時の奉仕者の任命をいただきました。未熟な私でございますが、奉仕者として神様の望まれるようにこの責務を、病気の苦しみを分かち合えることを感謝して努力してまいりたいと思います。このような機会をお導き下さいました神様に、心より感謝申し上げます。平和の使徒となることが出来ますよう、皆様もどうぞお導き下さり、お祈り下さい。

人生の 信仰 先輩たち からの メッセージ

9 月 15 日、敬老の日の祝賀会での人生の先輩たちからの言葉シリーズ・最終回です。

今回は、先輩たちの「夢」を紹介します。

- 素敵な妻と出会えたこと。彼女のお蔭で洗礼を受けることができた。
- 人に迷惑をかけずに長生きする事



- 祈り続けること
- 弱い立場の人と寄り添って生きることが少しはできた
- 日本の政治に携わる人が、広い視野と優しい思いを持ち、(特に原発、改憲)ともに歩めるよう
- 夫婦で元気であることが一番の希望だが、現実年を取ってくると難しくなる
- 在俗修道会のメンバーを増やしたい
- 平穏な人生を送ってきて、天国に行けること
- 忙しすぎて、夢をかなえる暇がない
- お琴をされていて、東京まで発表会に行った。まだ、次の会に向けて、頑張っている
- 年をとって何かやれるものがあるのは大切、支えになっている
- 昔の夢をかなえた体験が成功体験として残っているので、今頑張れる。それは顔に表れる
- 楽しく生きる「今」
- 子どもや孫に恵まれた日々感謝なので、特に夢は無いけど、娘が公教要理をはじめたので一つの夢がかなえられそう
- 生きている間に主の再臨を祈る
- 神様に信頼して親しく祈ることができるように、謙虚に自分のできることを精一杯安心していられるように

子どもたちが 寒さの中、街頭募金



11 月 17 日、子供ミサ、馬小屋飾り付けに引き続き、「内戦の続くシリア」と「台風被害の甚大なフィリピン」の子供たちのために街頭募金に出かけました。

参加は子供 10 名、大人とリーダー、保護者の 10 名程度。子供たちにとっては初体験なので、「今回は 1 時間程度で繰り上げる」当初の予定でしたが、晩秋の寒さの中、携帯カイロを支給されながら、子供たちは 2 時間も頑張りました♪。

【子どもたちの感想】○疲れたけど頑張った。○声を大きく出せるように頑張った。○大きいお金を入れてくれる人がいるなんてびっくりした。○たくさんの支援金が集まってうれしい。○無事に向こうに届いてほしい。

12月以降の行事等

12/8(日)

教会掃除の日

高齢者のつどい

マリア会定例会

結婚セミナー説明会(14:00)

12/9(月)

無原罪のマリアミサ
(10:00 小聖堂)

12/15(日)

10 分間の掃除

クリスマス実行委員会

運営委員会

教会学校授業

12/18(水)

聖時間(10:00 ~ 12:00
地下聖堂)

11:00 運営委員会

12/19(木)

祈りの集い(18:30 ~
20:30 地下聖堂)

12/21(土)

ゆるしの秘跡(14:00 ~
17:00)

12/24(火)

クリスマスミサ(18:00、
20:00)

12/25(水)

クリスマスミサ(0:00、
10:00)

1/1(金)

平和祈願ミサ(0:00)

平和祈願司教ミサ
(11:00)



編集後記

受験を控えた娘にとって、クリスマスはうれしい反面、残り時間を実感させるので、早く来てほしくない…と…。とにかくにも、もう師走。時の経つのは早いものですね。(ひ)

